

# グループシナジーを発揮した知的財産活動により 特許戦略優良企業として「知財功労賞 経済産業大臣表彰」受賞

株式会社日立ハイテクノロジーズは、平成21年度の特許庁「知財功労賞」において「経済産業大臣表彰（特許戦略優良企業賞）」を受賞した。日立製作所と連携しながら全社一丸となった戦略的な知的財産活動を推進し、グローバルに展開している最先端製品においてトップシェアを維持している点などが評価されたことによる。この受賞を弾みに、知的財産活動のいっそうの強化を図っていく。

## 国際競争力の高い製品を生み出す知的財産活動が評価

「知財功労賞」は、特許庁が毎年4月18日の「発明の日」に、産業財産権制度の有効活用や発展に貢献した個人・企業を対象に表彰しているものです。今回、日立ハイテクノロジーズは独自性の高い特許活動が評価され、「経済産業大臣表彰」を受賞しました。日立グループの中では初めての快挙です。

受賞理由として次の3点が挙げられます。(1) 市場の動向をにらみ綿密な特許マップ作成、先行特許調査などの活動を強化し、高い特許登録率を実現したこと、(2) 当社のグローバル事業を支える国外特許出願に力を入れ、日本企業の中でも高い国外特許出願比率を達成していること、(3) これらの継続的な努力の結果、CD-SEM (Critical Dimension Scanning Electron Microscope) では約82%、血液自動分析装置では約20%など、主力製品が世界トップシェアを維持していることです。

## 三位一体の活動を柱とした戦略的な知的財産活動

当社の知的財産活動は、「顧客第一主義」を貫く経営戦略の下、事業戦略・研究開発戦略と特許戦略の融合をめざす三位一体の活動を柱としています。そのために、日立製作所の知的財産権本部、研究所、当社の事業戦略部門、営業部門、設計部門、および知的財産部の連携体制の下で、課題抽出・特許創生・有効特許の育成というサイクルの確立に取り組んできました。そのポイントは3点あります。

第一に、特許マップに基づく戦略的特許活動です。まず、事業戦略・営業部門が収集したお客様の最新のニーズ・課題を分析し、予測した市場動向から研究開発ロードマップを作成します。と同時に、製品ごとに関連する特許を整理して特許ポジションの優劣を可視化する特許マップを作成します。それらを基に知的財産戦略を策定し、各製品の優位技術を確認するものとし、他社と競合する技術を積極的に強化する活動を展開しています。

第二に、他社に対して先行し強みとなる最重要特許の創生活動と、その特許を核として特許網を構築する特許育成活動です。特許創生活動はFS (Flagship) 特許活動と呼んでおり、日立製作所の知的財産権本部、研究所と一体となっ

た特長ある活動です。特許育成活動はPPM (Patent Portfolio Management) 活動と呼んでおり、特許の補正・分割などの手法を駆使し、事業上強力な特許網を構築しています。

そして第三に、横断的特許育成活動です。異なる製品の間で共有できる技術の特許戦略に組み込み、競合他社に対して有効な特許を育成する体制を構築しています。製品部門の壁を越えた特許の育成を通じ、特許の活用性を高め、事業に大きく貢献できる活動を実行しています。

## より高いブランド価値の醸成へ

当社の知的財産活動も、最初から順調だったわけではありません。知的財産部は社内の意識を高めるため、「事業戦略＝特許戦略」であり「事業で勝ち続けるには特許でも勝つ」と訴え続け、時間をかけて発明の創生・育成・活用を促進する環境を整備してきました。また、設計部門と一体となって、特許の質を高める活動にも地道に取り組んできました。もちろん、そうした活動は、日立製作所の知的財産権本部と研究所の協力や、当社経営幹部の知的財産に対する深い理解とリーダーシップがあったからこそ実現しました。その意味で今回の表彰は、伝統と実績のある日立グループの知的財産活動という土壌の上に、当社の全社的な取り組みが結実したものです。

今後は、特許だけでなく意匠・商標の取得も積極的に推進し、知的財産の活用の幅を広げ、日立ブランドの価値をより高めていきます。そして、日立グループ全体の事業発展に貢献できるよう、知的財産活動のレベルアップに努めます。

株式会社日立ハイテクノロジーズ 知的財産部の石塚利博 部長 (左)、永松貴志 技師 (右)

